



令和2年度 プラスチック対策プラットフォーム会議の開催結果について

令和3年3月25日
プラスチック対策検討会

プラスチック対策について、関係する地方公共団体および事業者団体の活動の促進に資する情報共有と意見交換を行うことにより、関西広域でのプラスチックごみ削減を目指すことを目的として、令和元年6月に設置した琵琶湖・淀川流域海ごみ抑制プラットフォームを改組してプラスチック対策プラットフォームを令和2年12月に設置し、会議を2回開催しました。

会議では本検討会が行ったプラスチック代替品の普及可能性調査、およびプラスチックごみ散乱状況の把握手法等調査の報告や関連する情報の共有を行い、調査の進め方や今後の取組みについて議論しました。

参加団体 関西広域連合構成府県市、(一社)全国清涼飲料連合会、(一社)日本フランチャイズチェーン協会、PET ボトルリサイクル推進協議会、日本チェーンストア協会関西支部

第1回会議(プラスチックごみゼロシンポジウム)令和2年12月24日(木)

開催趣旨：プラスチックごみについての現状・課題の周知と問題意識の醸成。ごみ削減の取組の
情報提供を通じて、事業者、団体、行政および住民による実践行動を促す。
(広域環境保全局と共催)

主なプログラム：

1. 有識者による基調講演
『未来のために知っておきたい、海とプラスチックの話』(大阪商業大学准教授 原田禎夫)
2. 事業者等による先進事例の紹介
『リユース食器の活用でごみゼロ大作戦』(NPO 法人地球環境デザイン研究所 ecotone)
『「脱使い捨て」に向けた給水スポットの拡大』(水 Do!ネットワーク)
3. プラスチック対策検討会の調査事業の(中間)報告

<主な意見交換内容>(アンケート結果より)

- ・ 「自分の行動にも改めて気づきがあった」、「他者に対しても更に呼びかけたい」など意識変化・行動変容に繋がる感想が多く寄せられた。
- ・ スーパーなど販売者側も意識を変え、食品包装をプラの代替も含めて見直すべき時期に来ていると思う。
- ・ マイバッグだけではなくマイボトルも定着するように取組み、PET ボトル1本、ごみ袋1つから無くしていく意識付けが必要。

第2回会議 令和3年3月11日(木)

テーマ：ペットボトルリサイクルの取組とプラスチック代替品開発の先進事例の情報共有

主なプログラム：

1. 話題提供

『ペットボトルの「ボトル to ボトル」リサイクルについて』(PETボトルリサイクル推進協議会)

『カネカ生分解性ポリマーPHBHの開発の取組について』(株式会社カネカ)

2. 調査報告

『令和2年度プラスチック代替品の普及可能性調査およびプラスチックごみ散乱状況の把握手法等調査事業結果について』

<主な意見交換内容>(アンケート結果等より)

- ・ PETボトルリサイクルの処理工程や今後の生産能力推移、適正なボトル回収の重要性が理解できた。
- ・ 海洋生分解性プラスチックの分解実験の結果や他製品との違いなど、その特性を理解できた。新たな選択肢として今後注視したい。
- ・ 散乱ごみ推計モデル構築に関しては、観光客の要素を更に考慮すべき。街の美化活動に生かせるモデルに期待したい。
- ・ 海岸漂着物の地域計画など他自治体の施策の情報共有・意見交をする場を求めたい。